

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 国際収支(2017年12月)
～輸入の増加によって黒字幅は縮小～

発表日: 2018年2月8日(木)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 エコノミスト 齋藤 麻菜
TEL: 03-5221-4573

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支
					貿易収支	サービス収支	
2017	1月	952	12,518	421	1,594	▲ 1,173	13,566
	2月	28,940	23,705	6,624	8,272	▲ 1,648	19,111
	3月	29,805	17,970	1,954	3,481	▲ 1,527	17,205
	4月	19,557	18,278	3,532	2,566	965	15,956
	5月	16,776	14,246	942	2,683	▲ 1,741	14,810
	6月	9,288	15,155	1,009	1,577	▲ 569	15,972
	7月	23,680	20,816	4,237	5,278	▲ 1,041	18,459
	8月	23,941	22,767	5,858	6,334	▲ 476	19,118
	9月	22,593	18,249	3,833	4,684	▲ 851	16,481
	10月	21,764	24,415	8,237	5,808	2,429	17,899
	11月	13,473	17,005	4,164	5,074	▲ 910	14,980
	12月	7,972	14,796	2,074	2,302	▲ 228	15,180

(出所) 財務省「国際収支統計」

○経常収支（季調値）は黒字幅が縮小

12月の経常収支（原数値）は7,972億円の黒字（コンセンサス: 10,569億円の黒字、レンジ: 8,800～12,612億円）とコンセンサスを大きく下回る結果となった。季節調整値では14,796億円の黒字と、前月から黒字幅が縮小している。

経常収支（季節調整値）を項目別にみると、所得収支、サービス収支が横ばいで推移する中で、貿易収支の黒字幅が縮小（11月: +5,074億円→12月: +2,302億円）したことが大きく押し下げに働いた。貿易収支は、輸入の大幅増加が続いたことから水準を切り下げている。ただし、輸出についても、このところ高い伸びをみせていたアジア向け電気機器の増加は一服したものの、引き続き増加基調にあるとみてよいだろう。

共に公表された2017年の経常収支（季節調整値）は、21兆8,742億円の黒字となった。輸入の増加によって貿易黒字が縮小する中で、年初からの直接投資収益の増加が大きく押し上げに寄与し、前年比で黒字幅を拡大させる結果となった。

○所得収支は横ばい推移

12月の貿易外収支（季節調整値）をみると、第一次所得収支は15,180億円の黒字と前月から横ばいで推移した。直接投資収益の増加分を証券投資収益の減少が相殺した格好だ。直接投資収益については、前月に大きく減少していた受取額が回復をみせたこと（11月: 8,693億円→12月: 9,908億円）が増加に繋がっている。直接投資の受取額は16年平均対比でも14%程増加しており、振れを除けば増加基調が続いているとみてよいだろう。また、証券投資収益についても、振れを伴いながらも緩やかな増加基調が続いているとみられる。17年の直接投資収益の受取額は前年から2兆円超増加しており、経常収支拡大の牽引役となっている。17年に

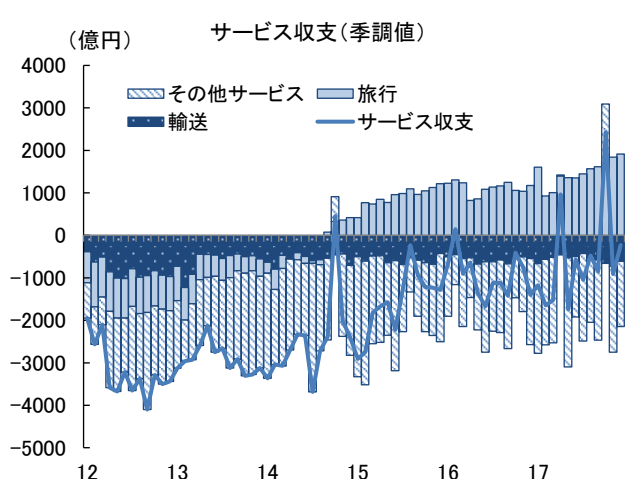
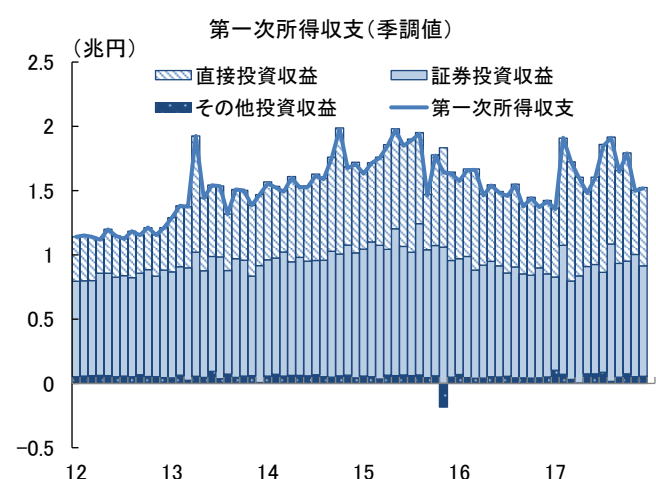
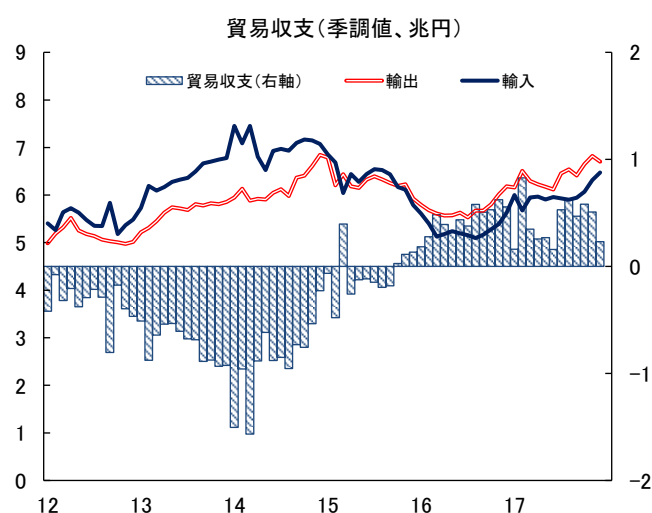
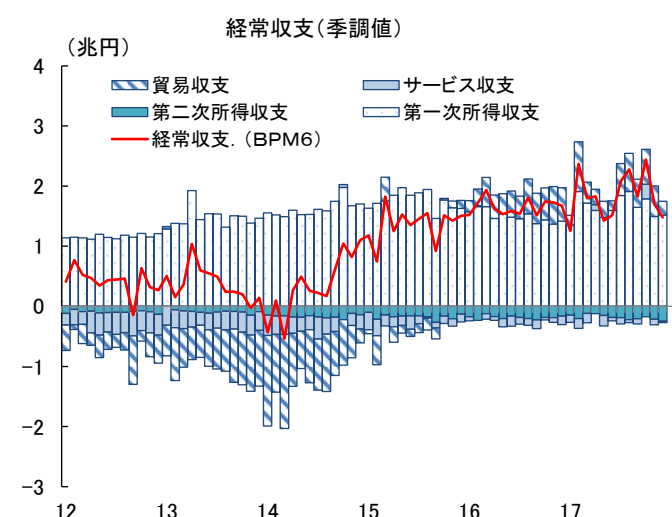
は大口案件による押し上げもあったことから、今後同様の増加ペースは見込みにくい、世界経済の拡大が続く中で、所得収支は増加基調が続くとみている。

サービス収支は、▲228 億円と前月から赤字幅が縮小した。内訳をみると、その他サービスの赤字幅が縮小したことが主因となっている。知的財産使用权の受取額増加が最も大きく寄与しているが、振れの範囲内だろう。

○経常収支は高水準での推移が続く見込み

以上のように、12 月の経常収支（季節調整値）は、貿易黒字の縮小を受けて、黒字幅が前月から縮小する結果となった。ただし、所得収支の受取額が増加基調にあるなど、経常収支は堅調さを保っている。

経常収支の先行きをみると、輸出は、アジア向け輸出の一旦の反動は予想されるが、世界経済の拡大が続く中で今後も増加を続けるとみている。一方で輸入についても、原油価格の高止まりから金額面での押し上げが続くだろう。輸出の増加や内需の回復を受けた数量面での増加も相俟って輸入金額は高い伸びを続け、貿易黒字は緩やかに縮小していく見込みだ。所得収支については、好調な世界経済を背景に直接投資収益、証券投資収益ともに増加基調を辿るだろう。総じて、経常収支は、所得収支を下支えに引き続き高水準での推移が続く見込みだ。



(出所)財務省「国際収支統計」